

教科	家庭科	科目	家庭基礎	学年	第1学年	系列 コース	共通
単位数	2 単位	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造(2東書 家基-701)				
副教材	家庭科ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会) 調理実習ノート(愛媛県高等学校家庭科教育研究会)						

## 1. 学習の到達目標

(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付ける。
(2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
(3) 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実を図ろうとする実践的な態度を養う。

## 2. 評価の観点

①知識・技能	生活を主体的に営むために必要な一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
②思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構築し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
③主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

### 3. 学習の計画

学期	月	週No.	学習項目(単元)	学習内容
1 学 期	4月	1	第1章 生涯を見通す	生涯を見通して、生活課題に対応し意思決定していくことの重要性について理解する。 家族・家庭の機能と家族関係、家族・家庭生活を取り巻く社会環境の変化や課題、家族・家庭と社会との関わりについて理解し、考察したことを論理的に表現する。 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子供を取り巻く社会環境、子育て支援について理解する。 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身に付ける。 子供の健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について問題を見いだし、考察したことを論理的に表現する。 目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 自己の家庭生活について課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現する。
		2	1 人生を展望する	
		3	第2章 人生をつくる	
		4	1 人生をつくる	
	5月	5	2 家族・家庭を見つめる	
		6	3 これからの家庭生活と社会	
		7	第3章 子どもと共に育つ	
		8	1 命を育む	
	6月	9	2 子どもの育つ力を知る	
		10	3 子どもと関わる	
		11	4 子どもとの触れ合いから学ぶ	
		12	5 これからの保育環境	
		13	第6章 食生活をつくる	
	7月	14	5 調理の基礎	
		15	調理実習(2回)	
		16	ホームプロジェクトの実施	
2 学 期	8月	17	ホームプロジェクトの発表	
		18	1 食生活の課題	
	9月	19	2 食事と栄養	
		20	3 食品の選択と安全	
		21	4 生涯を健康を見通した食事計画	
		22	調理実習(2回)	
	10月	23	第4章 超高齢社会を共に生きる	
		24	1 超高齢・大衆長寿社会の到来	
		25	2 高齢期の心身の特徴	
		26	第5章 共に生き、共に支える	
	11月	27	1 私たちの生活と福祉	
		28	2 社会保障の考え方	
		29	第9章 経済生活を営む	
		30	1 情報の収集・比較と意思決定	
		31	2 購入・支払いルールと方法	
	12月	32	3 消費者の権利と責任	
33		4 生涯の経済生活を営む		
34		5 これからの経済生活		
3 学 期		1月	35	第8章 住生活をつくる
	36		1 住生活の変遷と住居の機能	
	37		2 安全で快適な住生活の計画	
	38		3 住生活の文化と知恵	
	2月	39	4 これからの住生活	
		40	第10章 持続可能な生活を営む	
		41	1 持続可能な社会を目指して	
		42		
	3月	43	第11章 これからの生活を創造する	
		44	1 生活をデザインする	
		45		

### 4. 評価の方法

総合的に定期考査の得点に加えて、ホームプロジェクト、体験学習のレポート、ワークシートの記述等日々の学習活動について、各評価の観点(①知識・技能、②思考・判断・表現、③主体的に学習に取り組む態度)ごとに評価する。